

〔秋季例会合宿調査報告〕 馬坂・広川原・田口峠の植物採集

森 泉 恒 男

第120回例会は、昭和62年9月12～13日の両日南佐久郡田口町新海神社～馬坂～広川原～田口峠のコースで植物採集会として行われた。

参加者は、当日参加の方を含めて、望月精一、小口好久、斉藤定美、今井建樹、花里弘、池田登志男、中山冽の諸氏と幹事の森泉、総数8名で天候不順時の採集会ではあったが盛会であった。

関東山地とよばれ、埼玉県から北西に千曲川の流路まで続く山地で、その大部分は秩父多摩国立公園として奇勝に富み、人跡未踏の原始林さえあり、地質的にも動植物研究にも興味をもたれている。この山地の西北端の部分が佐久山塊である。千曲川以東の部分で、地質構造をみると秩父古生層と中生層が関東山地におけると同様に東西性の帯状に山地に平行して鱗段構造をくりかえし、多くの断層にたち切られたり、断層にそって進入した深成岩や小規模の火山岩が露出している。秩父古成層は主としてチャート、硬砂岩、粘板岩、輝緑凝灰岩、石灰岩によって構成され、チャート層が最も厚く、山嶺部の岩壁によく現われている。中生層は砂岩、礫岩、泥板岩、石灰岩が主で、南部地域の石灰岩はストロマトポラ、サンゴなどからできている。この他に、古新第三紀層、洪積層、深成岩、火山岩などの地層もある。また、広川原には、景勝地として地下湖、最勝洞群が存在している。

気候的には年間雨量2500mm前後で年平均気温10℃、佐久地方と異なる。杉・茶・コンニャクいもなどが栽培されている。

第1日（9月12日） 天候は曇り空で、はだ寒い日、宿舎の湖月荘まで行くのに時間があつたので新海神社（海拔700m）周辺の植物採集をおこなう。スギの大木のほかにケヤキ、シナノガキ、コナラ、ホウノキなどの高木類の下に、イラクサ、シオデ、エゾノタチカタブミ、ヘクソカズラ、ヒヨドリバナ、エゾハタザオ、アオミズ、キバナアキギリ、スズメノヒエ、ヤマハッカ、ツリフネソウ、ヤマゼリ、ミズヒキ、シラヤマギク、ヤブジラミ、ヤブマメ、オトコエシ、オオガクビソウ（暖地性）などの草本類や、ツタウルシ、ヤマカシウ、サワフタギ、ハナカダ、サルマメ、ミヤマウグイスカグラ、エビガライチゴなどの低木類などが見られた。

神陵の周辺では、イヌワラビ、クマワラビ、クサ

ノオウ、メナモミ、ミチヤナギ、イワトラノオの草本類やモミの大木などもみられた。

神、神社周辺では、タチネズミガヤ、ホソバシケシダ、シラネセンキュウ、オトコエシ、ヘビノネコザ、テキリスゲ、アズマヤマアザミ、アキノウナギツカミ、フィリフモトスミレ、テキリスゲなどの草本類などが見られた。また低木類として、ミツバウツギ、ニシキウツギ、コゴメウツギ、ノリウツギ、フジウツギ（ユキノシタ科）が多く見られた。スズタケの群生もある。リョウブ、ハシドイ、ナツツバキ、ハルニレ、トチノキなどが見受けられた。

朝食後、田口峠を下り馬坂海拔400mへ向う。部落から下って二号橋付近で採集をはじめ。道路の右肩の石垣には、コバノヒノキシダ、ツルデング、クマワラビ、ハコネシダ、ヤマヤブソテツ、ウラゲイワガネゼンマイ、ジュウモンジシダ、イワイタチシダ、フクロシダ、クモノスシダ、ピロードシダなど、シダ類の群生が目立った。ここは湿りけが多くシダ類の生育に適したところみごとなもの保存しておきたい。更にイワタバコ、ヤマミズカラムシ、オオバイノモトソウの草本類やテイカカズラ、タマアジサイ、コクサギ、ムラサキシキブ、アブラチャンなどの低木類や高木としてイロハカエデがあつたのは注目すべきであつた。

馬坂部落周辺ではミヤマウラジロ、イワオモダカカテンソウ、ゲンジスミレ（長野県に多い）、ハクモウイノデ、オオネズミガヤ、ツリフネソウなどの草本類やツバキ、シラカシ、カヤ、サワシバ、アカとイヌシデなどの高木類、狭岩峡では、オオビランジ、ヤマイヌワラビ、イヌブナ、アブラツツジなど広川原では、フクオソウ、ミツバフウロ、アズマヤマアザミ、コセンダングサ、ホツツジ、ナツハゼ、オオバマンサク、ハクウンボク、ツガなどが見受けられた。田口峠海拔1200m、ママコナ、アサマヒゴタイ、ミズタマソウ、チゴユリ、オクモミジハグマ、ヤマツツジ、ミツバツツジ、マツブサ、ハンショウヅル、サワフタギ、クサボタン、ミズナラ、アオハダ、フサザクラ、ハウチワカエデ、リュウノウギク、フィリフモトスミレ、スズタケの群生、マツブサ、カマツカなどが見られ、各人がそれぞれの思いを残して散会した。（注）雨川沿い丸山附近にはコゴメヤナギの群落がみられる。